

基準同等仕様8-①

『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

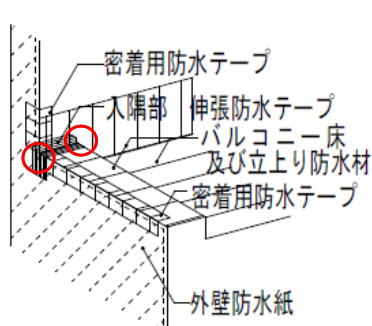
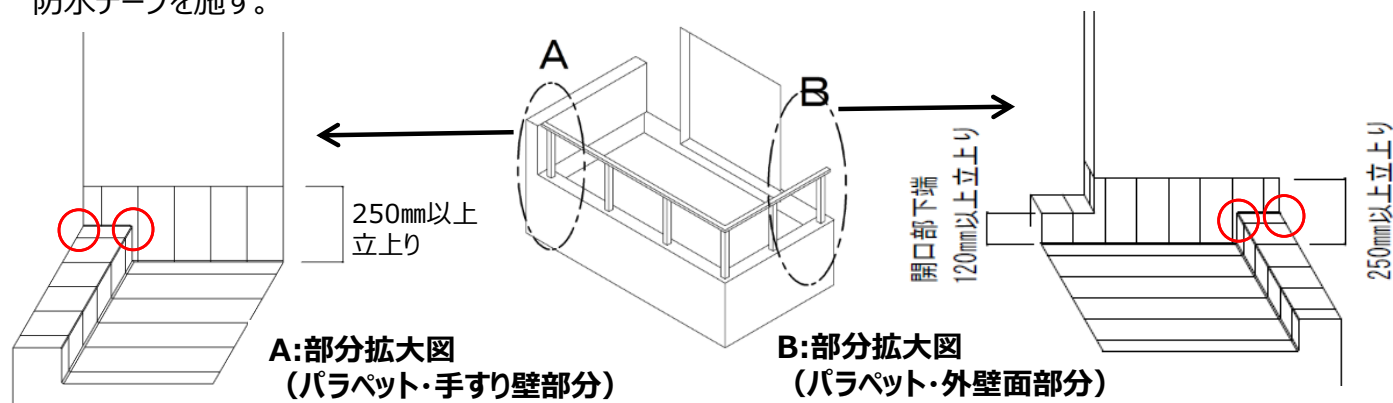
手すり壁にアルミ製等の手すりを取付ける場合

手すり壁に既製品アルミ製笠木・手すりを取付けるため、形状上やむを得ず、手すり壁部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

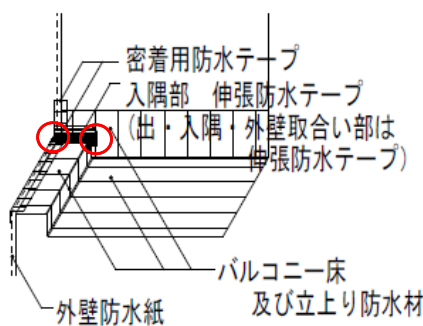
※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-①」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様8-① 防水・止水措置

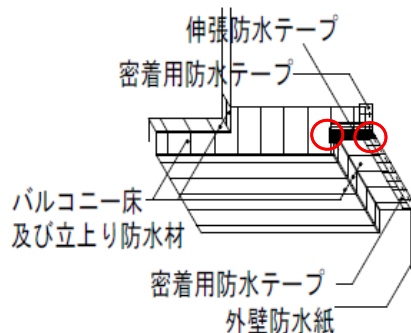
1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁部取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



A:部分解説図



A:部分解説図



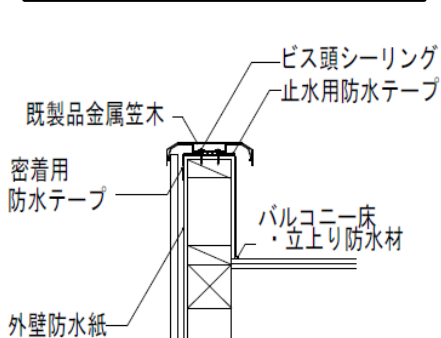
B:部分解説図

外壁防水紙 (通気構法: 透湿防水シート, 非通気構法: アスファルトフェルト430以上 「パラペット取合い部分のみ表示」)

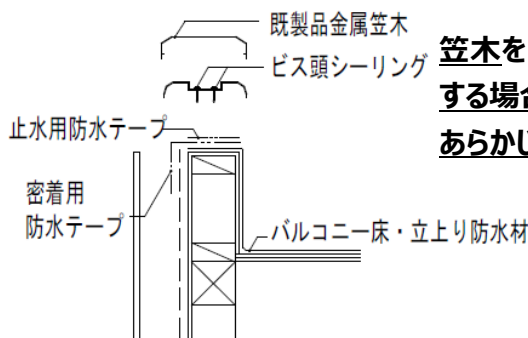
バルコニー床及び立上り防水材 (FRP防水等) 三面交点止水措置用 伸張防水テープ 密着用防水テープ

(密着用防水テープはパラペット外側端部で床・壁防水層と外壁防水紙を連続し密着する。)

納まり図



納まり図・分解図



笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

基準同等仕様8-②

『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

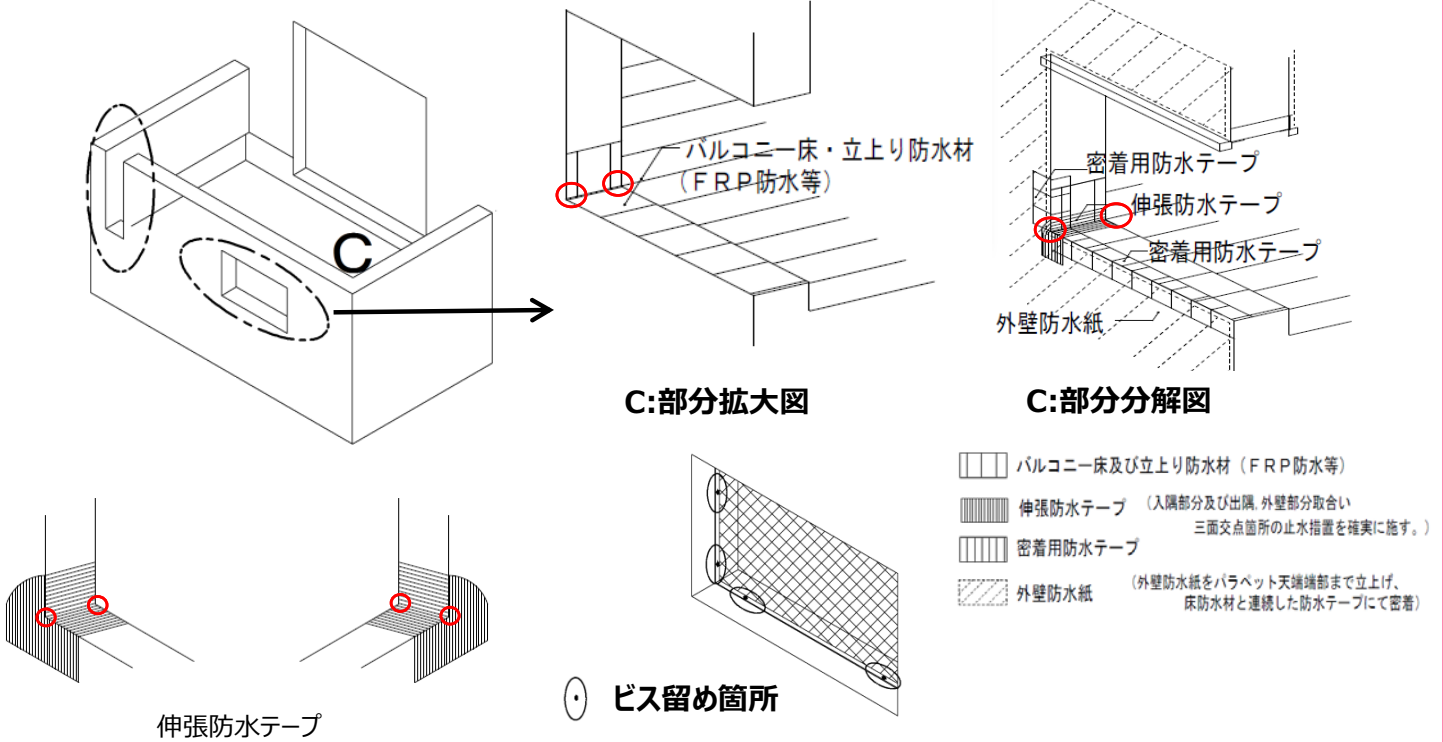
手すり壁にスリットや飾り窓を設ける場合

手すり壁にスリットや飾り窓を設けるため、形状上やむを得ず、スリットや飾り窓部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-②」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

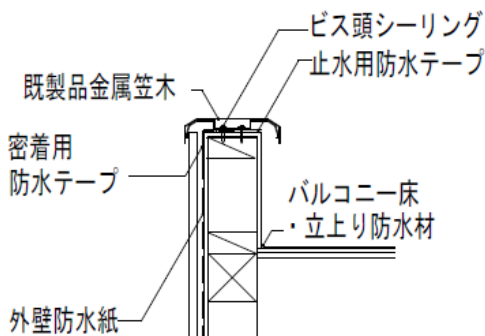
基準同等仕様8-② 防水・止水措置

1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部)) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。

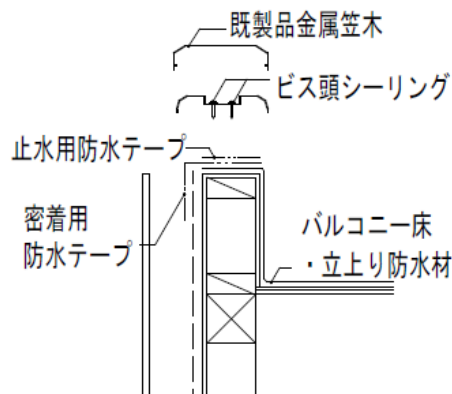


飾り窓に化粧金物等を取り付ける場合、固定するビス等が防水層を貫通する部分にはあらかじめ防水テープ等を施し止水する

納まり図



納まり図・分解図



笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

『(形状上) 防水層の立上り高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

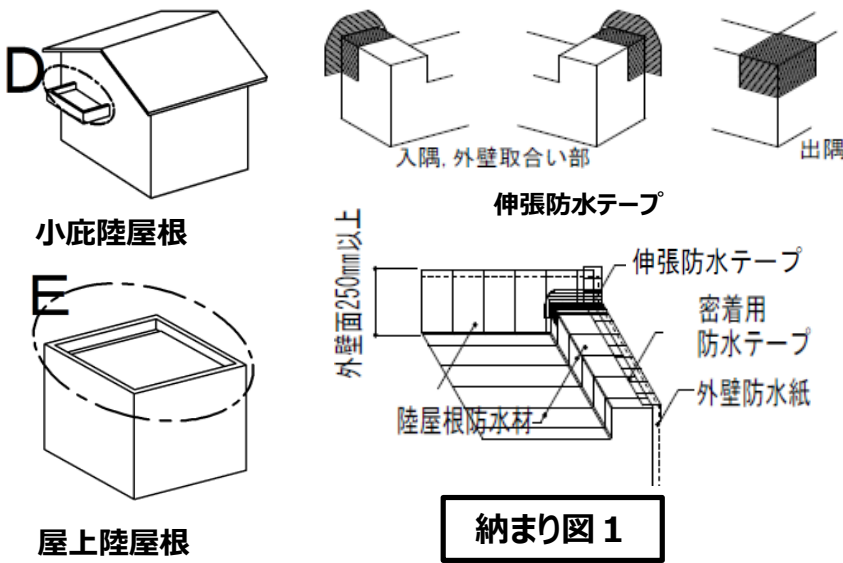
パラペット自体の高さが250mm未満の場合

パラペット自体の高さが250mm未満のため、形状上やむを得ず、パラペット部分において防水層の立上り高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

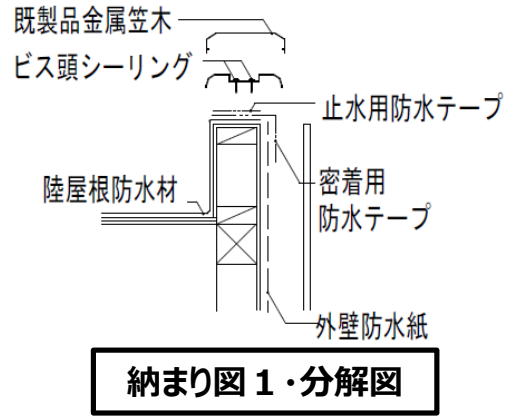
※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様8-③」とご記入ください
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

基準同等仕様8-③ 防水・止水措置

1. 陸屋根防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる【納まり図1】
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する



(水下側に内樋を設ける場合【納まり図2】参照)

1. 内樋防水材(FRP防水等)は屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下葺き材を重ね、防水テープで密着させる。
2. 内樋防水材(FRP防水等)をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
3. 内樋寸法及びドレイン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする。

